

授業科目

小児科学

担当教員名 和田 有子	対象学年	2	対象学科	視機
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	◎	◎

授業の概要

子どもの最大の特徴は成長するということである。お腹の中でも出生後も、発育と発達を続け、今日ではできなくとも明日はできるかもしれないという可能性を持つ。小児のリハビリテーションはそのような成長の途中で、日常生活、社会生活の中に生じる「不便」に対して、何らかの工夫をすることで「生活の質の向上」と図るものである。

授業の目的

個々の子どもに最適な方法を選択するためには、発達・発育、病気・外傷から心の問題、母子保健、教育に至るまで、多様な角度からの見方ができなければならない。小児科学では、この考えに従って、総合的な子どもに対する知識を習得し、小児のリハビリテーションに活用できる能力を養い、学び続ける姿勢を身につけることを目的とする。

学習目標

- 1 小児の発育・発達、生理、栄養、しくみ等を理解する。
- 2 小児の成長・発達を評価できる。
- 3 小児の異常や疾患を簡潔に説明できる。
- 4 小児特有の問題点を理解し、解決方法を提示できる。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	講義の初めに、小児の発育、小児の発達、小児栄養		和田 有子
2	胎児・新生児・未熟児、乳児・幼児・学童、小児の生理	2回目以降、必要に応じて確認テストを行うことがある	和田 有子
3	奇形、奇形症候群、重症心身障害、療育の問題		和田 有子
4	神経系疾患、発達障害、心身症、小児リハビリテーション		和田 有子
5	運動器疾患（筋疾患、骨・関節疾患）、内分泌疾患、腫瘍性疾患		和田 有子
6	循環器疾患、呼吸器疾患、感染症		和田 有子
7	免疫・アレルギー、小児救急と応急処置、事故と外傷		和田 有子
8	消化器疾患、血液疾患、腎・泌尿器疾患、生殖器疾患、感覚器疾患、子育てと虐待		和田 有子

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	標準小児科学 第8版 (Standard textbook)	内山聖 監修	医学書院	2013年	8,800円+税	
参考書	コメディカルのための専門基礎分野テキスト 小児科学	外間登美子	中外医学社	2005年	3,600円+税	
	小児科学 第4版 (標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野)	富田豊 編	医学書院	2012年	4,200円+税	
その他の資料	講義内で適宜配布					

評価方法

日常点（課題・確認テスト・態度）25%

試験成績 75%

履修上の留意点

解剖学・生理学等の基礎は習得されているものとして講義を行うので、良く勉強しておくこと。小児科学は難しい学問ではないが、非常に範囲が広く、覚えなければいけないことが多い。日ごろから講義プリント・教科書・参考図書を活用して、十分に復習をしておかなければ、短期間の試験勉強だけでは合格しないと考えてほしい。

オフィスアワー・連絡先

授業内容の質問・相談がある学生は、所属学科・学年・学籍番号・氏名・用件を記入の上、office-hour@nuhw.ac.jpへご連絡ください。